

## 令和4年度 第2回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和5年3月22日（水）午後7時から8時30分まで
- 2 開催場所 伊東市役所7階特別会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員4人（欠席2人）  
市長、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）
- 4 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 市長挨拶
  - (3) 意見交換
  - (4) 閉会
- 5 会議概要
  - (1) 開会  
企画課長から開会

- (2) 市長挨拶

令和4年度第2回の未来ビジョン会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。本日は、委員の皆様一人一人としっかり意見交換を行い、より実りある会議といたたく、2つのグループに分けさせていただきました。本日のテーマは、「委員の皆様の視点における伊東市の魅力とは。その魅力をどう伝えるか」です。

本市が抱える課題の1つに、人口減少がございます。今後20年間で本市の人口は、現在から3分の2になることが予想されており、この課題は都市機能の維持など多くの問題を引き起こします。出生数で言うと、300人を切りまして210人まで減少してしまいました。亡くなる方は、年間1,000人以上いらっしゃいまして、社会増がなければですが、毎年800人以上の人口が減って行ってしまいます。伊東市のまちの将来像として「行ってみたい 住んでみたい 住んでいたい まちづくり」をコンセプトにしており、この将来像を達成することが、人口減少を解決するための方法の1つであり、その手段の1つとして地域づくりが重要であると考えています。この地域づくりのために、本市の魅力の掘り起こしやブラッシュアップ等を行い、多くの方に本市の魅力を伝える必要があります。このことから、委員の皆様が考えます本市の魅力やその魅力のブラッシュアップの方法及びその魅力の伝え方等について、意見交換をさせていただき、市政に反映してまいりたいと考えました。

私は、「未来はつくるもの」と考えています。このまちの未来を変える。変えられるのは私達であり、一人一人がこういう伊東市をつくりたいという意味を込めて、未来を描けば、本市の未来をより良く変えることができると思いますので、委員の皆様と一丸となって、この難局を乗り越えてまいりたいと考えております。ぜひ、本日も、忌憚のないご意見をお願いします。

- (3) 意見交換

**【市長】**

それでは、座長として会議運営をさせていただきます。ご協力をお願いします。

トップバッターは、A委員お願いします。

### 【A委員】

未来ビジョン会議の開催通知をいただいて、伊東市のまちの将来像を初めて知りました。「行ってみたい、住んでみたい、住んでいたいまち」ということで、行ってみたいは観光客ですよね。観光客が来ることによって地域経済が潤うというところで、非常に大切だと思います。

住んでみたいは、移住の方に対してだと思いますが、伊東市の移住定住サイトを拝見しまして、すごくしっかりしていて、伊東市の良さがしっかり情報発信できていると感じました。

住んでいたいまちは、私も伊東生まれでして、やはり地域住民の方がこの伊東に住んでいたいというところで、自分の子どもも伊東で就職して伊東に住んでもらいたいです。この三つとも全てできれば三方良しで伊東市の未来は明るいと思います。

観光客の誘致は、市役所の観光サイトは私が見ても使い勝手が良いですし、非常に良くできたサイトかなと思います。観光協会も同じようなサイトを運営しているので1つのサイトにして、もっとブラッシュアップをしてサイトを作った方が観光客に訴求できるのかなと思います。伊東は本当に良い観光施設がありますし、新しい観光施設もできており、ハード部分は非常に充実していると思うので、売り込むことはできると思います。力を集中して、行った方がいいのかなと客観的に感じました。

移住は、移住定住サイトがしっかり作り込まれていると思いますが、伊東に移住したいと思っている人は、仕事も含めて自分で一生懸命調べると思います。ただ、漠然と伊東が良いところだなと思っている人は、仕事があるのかなと二の足を踏むところがあると思います。伊東市として職業斡旋は出来ないと思いますが、リクルートと移住を結び付けることができれば非常に良いと個人的に思います。

住んでいたいのは、地域住民に対してどうアプローチしていくかというところだと思いますが、伊東市は誕生祝い金として数万円給付されていて、年長さんになると給食費の無料などが伊東市独自の政策だと思いますが、どこのライフステージでどのような支援があるか視覚的に見えません。せっかく多くの良いことをやっているのに、生まれてから学校を卒業するまでに、どういう政策を伊東市として実施しているのか見られるようにしたら良いのではないかと思います。一生懸命やっている政策が住民に伝わらばいいのではないかなと感じました。実際に私の子どもは東小に通学していて、学童にも通っているのですが、月額1万2,000円の学童費を払っています。確か来年度から7,500円になると聞いたのですが、それはとても大きいことです。生まれてから、高校を卒業するまでどのような補助が入っていて、伊東市として子育てをどのようにバックアップしているのかというところを全体像として見られると良く伝わるのではないかと思います。

あと、個人的な意見ですが、学生の頃に伊東の良さについて教育等を受けた記憶がないです。刷り込みではないですが、小学生のときに学活の時間等を利用してみんなが伊東市の良さを考えようみたいなことを教育の一環として取り入れると良いのではないかと思います。高校から伊東市の魅力を伝えても意識が既に出来上がっていると思います。

最後に、交通事業者もやはり人手不足です。旅館等もそうだと思いますが、人は欲しいのですが採用に結びつきませんので、伊東市の産業を紹介して、市民の役に立っているんだよということを伝えるなど、市としてもバックアップしていただいて、リクルートを強化していただきたいと感じました。

### 【市長】

私もお客様から伊東市の魅力を聞いて、そこがそんなによく感じるのだなと思うことがあります。多くの方の意見を聞くということはとても大事であるということの日頃から心掛けています。

移住のサイトは、今、力を入れていて、多くのオファーをいただいております。30代、40代で移住する方がかなり多くなりましたので、仕事と結びつける方法を検討したいと思いました。

子育て支援策は、相当力を入れてきました。5歳児は保育料も無償です。これは伊東市だけが行っていることで、小学校に上がる前の年なので、なるべく出費を抑えてもらい入学に必要な経費に充ててもらいたいとの思いからです。ランドセルが、高いと10万円もする時代になってしまいましたので。しかし、時間が経つと当たり前になってしまうので、結局のところ見せ方だと思います。情報を探しにいかないと分からない。そういうところを工夫する必要があると思います。未来ビジョン会議で「みらい」という子育て支援をまとめた冊子を作る提案がありまして、実際に製作して配付しました。例えば、この「みらい」を移住された方に必ず差し上げることや移住を検討している方に差し上げるなど情報を表に出せばいいと思います。

伊東についての教育を私も学校で受けた記憶があまりありません。遠足等で観光地に行っていますが、地域学や伊東学なんて言いますが、イメージを楽しいものに変えて、こんな良いところに住んでいるんだよということを教えることができると思います。

高校卒業後の教育機関がないので、進学するためには、一度伊東市を出てしまいます。そういうことに対応しきれていないから戻ってこない。今は、資格を取ってくれば、人材が不足している部門に対しては、支援を行っています。今後は、もう少し様々な業種に当てはめられるように、今ほどこも人手が足りないので、検討していきたいと思えます。次にB委員お願いします。

### 【B委員】

先日、マルシェに行きまして、本当に感心しました。当日は雨が降っていたのですが、雨でも開催されていまして、雨のせいか人はまばらなところではありましたが、中学生と思われる人たちの姿がちらほら見えて、10代の居場所になっていました。マルシェに珈琲屋さんが出店されていて、お話を伺いましたら、2年前に移住されてきたようです。伊東に観光に来て好きになって、漠然とカフェをやりたいと思い、知り合いもないし、コネもないし、マルシェに気軽に参加できることを知って試しにお店を出してみようと思いついて出店したところ、キネマ通りなどの商店街とつながりができて、ノウハウを積んでいく中でついにカフェを出店するに至ったらしいです。マルシェがチャレンジショップ的な位置付けにもなっていました。公園も公共用地と言える場所だと思いますが、遊休の公共用地を賑わいの場やチャレンジショップの場として生かすこと

も、一種のリノベーションとも呼ばれています。マルシェを育てていけばすごくいいものになるなと思います。

逆に、改善すべき点としまして、マルシェのチラシに公共交通での行き方が掲載されていません。伊東市全体の人にイベントを知られても良いのではないかと思ったものですから、伊東全体の若い人に来てもらうということであれば、公共交通での行き方は大事なのかなと思いました。また、雨宿りできる規模のテントがあってもよかったのかなと思います。コーヒー屋さんから聞いた話で、公園に電源はあるけど、使用量には制限があって、IHヒーターは禁止らしいです。運営のホームページを見ても、基本的には電源は自前で用意してくださいというアナウンスがされていたので、今後マルシェを成長させていくという意味では、インフラ的な課題があると感じます。会場のすぐ横に松川があって、遊歩道が綺麗に整備されています。綺麗に整備された遊歩道に椅子やテーブルがありましたら、マルシェで買ったものを、海や川を眺めながら食べられると思いますが、そういうものがないです。ですので、短期的には、PRに使うチラシに公共交通の来訪手段を記載する。実証実験として、バスや鉄道で来訪する人に対して帰りの公共交通機関の割引券などを配布する。きっぷを提示することで、マルシェの割引サービスを受けられることを実施して、実証実験を行う中で、マルシェの来訪者数に変動があったのか、公共交通利用者数に変化があったかを確認する。あるいは、ノーマイカーデー公共交通無料ということも、最近はこの地方都市が実施していますので、その取組と組み合わせるのでもよいのかなと思います。雨天開催時は運動会で置くようなテントを配置する。マルシェに参加する個人や事業者に創業支援について紹介する。公的な補助金は、よほど調べないと見逃してしまうことが多いと思います。マッチングできる紹介コーナーを設けてもいいのかなと思います。小・中高校へマルシェのチラシを配布、公共交通機関の企業にチラシ配布の協力要請などをしてはどうでしょうか。

中長期的には、伊東駅前広場の再整備を実施したいと仰っていました。警察の協力が必要になりますが、富山や岐阜でトランジットモールの実証実験をしています。駅前をバス・タクシー・自転車・歩行者のみ通行可能とし、要は自家用車を排除します。排除して、店を出せるようにする。公共交通・歩行者・自転車のための空間をトランジットモールと言いますが、ヨーロッパでは普遍的で、中心市街地の賑わいを作っています。富山や岐阜は、その実験を繰り返し行っています。そこでマルシェのノウハウを伊東駅前広場のトランジットモール実験で活用することができないかなと思います。実験を通してどういった滞留空間、商業サービスに需要があるのか公共交通利用者が増えているのかななどを検証しつつ、トランジットモール実験を1年に1回ほどやって5年ほどかけて行って、実験結果から得られたデータを伊東駅前広場の未来のランドデザインに描いていく。インフラ整備は1度行ってしまうと修正が厳しいので、インフラを整備したという前提で、実験を繰り返してデータを取得して、それに基づいて市民からのニーズや需要のあるインフラをデータに基づいて整備することが確実だと思います。

あと、マルシェのインフラ・ハード面の制限がありますので、整備をしていく。マルシェが行われる広場は、イベントを繰り返すことで、起業創業につなげて、投資という地方都市の価値を維持向上することに役立っています。起業創業が増えれば中心市街地でお店を出しますので物件も買われます。そうすると資産価値が上がります。中心市街地の資産価値が上がれば、路線価も上がります。路線価が上がれば、固定資産税の税収も増えるという形で伊東市にもメリットがあります。例えば、パークPFIがありまし

て、指定管理者に近いのですが、民間事業者を公募して、民間事業者に公園の管理をやらせます。公園にカフェを設置して、売り上げの数%を市に納める。民間サイドにもメリットがあるので、パークPFIを活用して官民一緒に密接になって管理していくやり方もあります。沼津市は、沼津中央公園という公園が中心市街地にありますが、今、再整備を50年ぶりに実施しようとしていまして、まさにパークPFIを活用してやろうと言っています。先日、そのワークショップに参画して、話を聞いたり意見を言ったりしてきまして、とても面白いことになっています。公園が本来の機能だけでなくチャレンジショップの場になって、稼げる公園となり、街全体の価値を向上させる公園にしようということで、官民いろんな取り組みをやっています。

また、移住もとても大事だと思います。移住を促進する一方で、私の会社の同期が口を揃えて言うのが「出会いがない」。出会いもないし、給料も安いし、外に出ていってしまいます。有配偶出生率というものがありまして、これを見ると、40年前と比べて横ばい、あるいは微増になっている時期もありますので、何が少子化の原因かと言いましたら、あえて結婚しない人もいると思いますが、とにかく出会いがなくてできないということだと思います。1960年代というのはお見合いという良くも悪くも、セーフティネットがありましたから、婚姻率100%でしたが、今は市場原理的な自由恋愛による結婚が主流になって、生涯未婚率が50%を超えています。子育て支援も大事ですけど、出会いを求めている未婚の20代から40代ぐらいまでに出会いのきっかけを提供することはできないのかなと思います。沼津市は出会い応援課を作ったりしてがんばっているみたいです。例えばですけど、伊東市・伊豆市・東伊豆町・河津町の4市町で共同して、街コンを開催すれば、みんな喜んで来ると思います。街コンやらないかなとよく同期と話しています。

市役所のホームページに公共交通のアクセスが掲載されていません。人口減少が避けられない中で、ある程度コンパクトプラスネットワークのコンパクトシティの都市構造が必要であり、伊東市は色々なところに集落が散らばっているので難しいですが、そんな中でも都市をコンパクトにして、でもネットワークは強靱にするということがコンパクトプラスネットワークです。そのネットワークの中に公共交通が入ってまして、このネットワークの部分を軽視しているということが否めません。まず伊東市役所に公共交通でアクセスする方法を掲載するところから始めてほしいと思いますし、首都圏から移住してくる方が多い中で、バスマップや鉄道の時刻表等を情報提供するために、市役所に来た際にお渡しする。これを転入者モビリティマネジメントと言います。公共交通は民間の営利事業という面の一方、公共のインフラ的な面もありますので、市民の皆さんに公共交通を利用していただく。伊東市の計画にモビリティマネジメントと掲載してありましたので、モビリティマネジメントを強化していただきたいと思います。

ワンショットTFPという、市民にアンケート分析データが付いた公共交通を使わないで自家用車を使って移動していると、これだけ肥満になりやすいですよ、CO2排出しますよという誘導的なデータを付けたアンケートを送ることにより、公共交通機関を利用したいと感じた人には、公共交通の様々な情報提供をするというものになりました。京都市が成果を上げています。

パークアンドライドも検討してほしいです。伊東は面積が広大ですから単純にバスや鉄道を使うにも、駅が家から離れている方が多いです。駅の駐車場でお金を徴収してい

ます。有名な福井市は無料のパークアンドライド駐車場を駅前にどんどん整備しています。高齢者も駅までであれば運転できるという方がいると思います。

#### 【市長】

ありがとうございます。マルシェのことが多かったかと思いますが、雨のテントの設置や起業支援のアンテナショップみたいなものを出したりすることについて、参考にさせていただきます。

出会いがないということですが、私たちの若いときは、自身で出会いを求めていましたしそのために多くの努力をする時代でした。今は息子もそうですが、あんまりそういう感じではないと思います。絶対数が少ないということもあると思いますが、何か出会いの場につなげられるようにできればと思いました。

公共交通の使い方はとても参考になりました。課題はいくつかありますが、例えば伊東駅前の駐車場は、市民に限っては無料にしますとか、パークアンドライドの拠点の1つとして社会実験的にやってみる。しかし、言い方が悪いかもしれませんが、無料駐車場にすると、好き勝手に駐車して、本来の目的が果たせなくなってしまう、継続できないと思います。生活支援やコンパクトシティの目的が果たせれば、遊休地を活用できると思いました。

#### 【B委員】

あと、ノーマイカーデーウィークをやって、SNSに「公共交通は便利だ」みたいなPRをするとか、企業にも呼びかけて登録制にして実施してくれたらインセンティブを与えると、機運を盛り上げることも大事かもしれないです。

#### 【市長】

かつては実施していました。時代が変わったので、また検討します。次にC委員お願いします。

#### 【C委員】

私は観光ホームページを運営している側ですし、創業者視点でも自分でお店を出しているので、プレイヤーとしての伊東市の魅力みたいな、個人の範囲で実際にどう映っているかということをお伝えしたいです。

創業では、自分自身は東京や千葉に住んでいる期間が長かったので、競争相手や開業資金も全然違うし、自分がやろうとしていることを先に誰かがやっていたりとかすると自分がやれるようなフィールドはないのかなみたいな感じで、臆病になってしまうんですけど、こちらだと圧倒的に人口の差もありますし、結構皆さん東京で何か人が多いから、一応頑張るぞみたいな感じで出店される方が多いと思うんですけど、逆に地方の方が自分でも今お店をやっているのが、今、すごいニッチなジャンルで商売をしているにも関わらず喜ばれることが多くて、伊東は市民の方がフラッと休日に立ち寄れるような場所があまりないというところで、20歳から年配の方までうちの店にご来店いただいている、需要と供給という意味でも、都会にお店を出すというよりかはこちらの方がチャンスのある場所だなと思います。

あとは、魅力の発信ですが、普段、SNSとかを見てくださいっている方からコメントだったりメッセージをダイレクトにいただくことがあるのですが、そういう方々からは、ちょうどいい距離感でスポットが多すぎず少なすぎないというご意見もいただいたりして、魅力的なスポットがあちこちにありすぎると、1日で周遊するのは難しいですよ。いただいたご意見だと、伊東は縦に長いということもあって、今回はまちなかエリアを観光して、次は伊豆高原エリアを観光してなど、エリアに分けて何度も来ていますというコメントをいただきました。そういう旅行の仕方もあるのだなということを見ることができました。自分の友人も遊びに来てくれたのですが、あちこち見て周るというよりは、ゆっくりしに来ます。例えば、午前中に東京を出て、お昼を食べて、少し1、2ヶ所観光地を回って、早めにチェックインしてゆっくりするという方が多くて、温泉旅館がたくさんあるというのも1番の特徴だと思います。観光スポットがありますという発信の仕方よりも、週末にくつろぎに行きませんかというPRの方が伊東は合っているのかなと思います。自分でいくら発信しても、どれぐらいの方に届いているのかわからなくて数値で見えたりするものではないのですが、やはりロコミ効果はすごく強いのか、結構伊東市の位置情報をつけてSNSで投稿してくださっている方が増えています。それを見て素敵なお場所だと思って足を運ぶ方が多いのだろうなと思います。自分が発信するよりも、そういう人たちの力をお借りした方がいいのではないかと思ったこともありました。

また、この3年間でロケの問い合わせも増えて、撮影する作品のスケールも大きくなっていったり、有名な方が来たりしていましたので、メディアの露出が増えたことで、ファンの方が滞在して、ロケ地巡りをしてSNSにアップするのをよく見るようになりました。だから自分たちで来て来てというアピールよりは、ある程度はメディアの力を借りたり、ロコミだったりをうまく活用してアピールすることが今は大事だなと実感しました。

SNSの発信をしていて感じたことは、フォロワーが私が来た2020年と比べると2倍以上になりまして、魅力がだんだん伝わっているのだろうなと、東京からもちょうどいいし、美味しいものもあるし、温泉もあるし、伊豆の中でも伊東が少しずつ認知されてきていると感じました。

### 【市長】

特にロケは問い合わせが多くなりました。実際にロケが多くなりましたから、聖地巡礼も今後していきたいと思います。

起業支援として、伊東だとこのぐらいの資金でできますよというのと伊東市は開店資金の補助金を出していますので、こんなにバックアップしていますよというのを売り込みにして、伊東で起業しませんかみたいなことをやりたいなと思いました。

ずっと住んでみると、魅力がわからなくなってくると思いますか、観光計画はスポットを3つに分けていますが、目的別のアクティブな旅を求めているときとリラックスするときとで売り込みの仕方を分けて、仕掛けていきたいなと思いました。次にD委員お願いします。

## 【D委員】

皆さん本当に良い思いがあつてすごい勉強になるなと思つて聞かせてもらいました。

このテーマを聞いてから考えたのですが、伊東市の魅力は従来通りあるのかなと、ただ現実にと考えると、その魅力をもう支えられないのではないかと思います。観光客が来てもタクシーがいなかったりですね。つまりは、どうやって支えていくのかということを考えるのが急務なのかなと。会社と市を照らし合わせて考えると、やはりこの厳しい現実を市民に知らしめた方がいいのかなと思います。伊東市は裕福だと思います。熱海や東伊豆と比べると、本当に色々なことをやって色々な補助が出て、でもそれは結構当たり前になってきています。他の地域ではないよというところを、気づかせてあげないと、さきほどのマルシェの中でもテントは補助を利用して町内会で買っていると思います。最近、防災倉庫の移転作業を町内でやりましたが、このテントを普通に使えばいいのではないかなと、めったに使わないので。必要期間だけ、市から各町内にイベントで使いたいから協力してほしいみたいな依頼をすれば良いと思います。市民の中には、協力したいという人がいると思います。その人達が声を上げやすいように、今これだけ大変ですよということを知らせないと。未来を考える前に、現実的に何年後かにはこんな大変な問題が起きますよ。今年の年末も旅館は全部部屋を開けられていないですし、小売店でも店舗を1店舗閉めていました。働き手をどう確保するかというところをしっかりとやっていかないと素晴らしい観光施設も資源も活かさないのかなと感じました。

皆さん言われるように、見せ方が重要だと思います。私の会社でも採用で見せられるものは、将来設計として年収はこのぐらいになるよなどです。補助金の利用方法をイラストや漫画で発信していければと思います。

先ほど起業するコストの話がありましたが、移住して起業したらこんな感じになりますよ。こういう補助金をもらえますよ。こういう援助をしてもらえますよ。ということをつかり易くすると移住してきた方も助かると思います。また、移住者と市民のつながりを持つイベントが定期的であれば、そこで色々なつながりができると思います。本当は民間主導でやって市が背中を押す形がいいのかなと思います。自分が言ったことが形になると、社員はやる気になります。当事者意識ですかね。出会いの場も若者世代が自分たちで企画してみたらいいのではないかと思います。私も女性は自分で獲得しに行くという感覚があるのですが、それはもう価値観が違うと思います。今日のWBCの優勝もそうですが、年配の方はすごく喜んでいましたけど、若い人たちはそんなでもない。好きな人は喜んでいましたけど、70代の視聴率はすごいらしいので、それぐらいギャップがありますので、そうすると若い人たちがやれるような形にして、自分の声が反映されて形になると自然と郷土愛が出てくるのかなと思いますし、企業側も育てていかなければと思います。

公共交通を使いましょうということも経営者がみんなやろうよという視点を持って、官民一体でやっていかないと、きつい現実があるのだよと、自分の会社さえ良ければいいみたいな感じがある中で、このままだと行き詰まるよと。地域があつて、皆さん事業が出来ているんだよということを手く見せると10年後の伊東市はこのままだとこんなに危険だよという脅かしもありますが、実際人口も減りますし、税収だって減るでしょうし、お客さんが来ても道を増やすとか単線を複線にすることは現実に難しいので、各企業がサービスではないけど、トイレを自由に使ってくださいよという姿勢ができる

と、自然とリピーターも増えるのかなと思います。地道にやっていくしかないのですが、伊東の魅力はありますが、どう我々市民が活かしていくかということを思いました。

#### 【市長】

課題は人材の確保です。外国人の実習生も来なくなりましたので、全体的に人材が不足しています。昔と価値観が変わってきて、例えば大工さんになりたければ、お弁当を持ってお仕事を教えてくださいということを何年もやって一人前みたいな時代がありました。市としては、例え民間でこんなことを企画したけど、市が手伝ってくれないかというところで、そのうちの半分できるか、3分の1できるかなということは協議が必要ですが、この方法が望ましいと思います。官民一体というか、民間が考えていただいたことに我々がここまで応援するからやってほしいということが望ましいと思います。

#### 【D委員】

極論を言うと、良い波が来たから仕事に行かないでサーフィンに行って、その後働きますよという感じの勤務体系にしないと人材は集まらないですよ。何時から何時まで仕事をなささいよということではなく、その辺を補う必要があると思います。

わが社では現在の運転手が退職するとみんないなくなってしまう。本当に連携しながらやらないと、夏の繁忙期は工事も少なくしてみんなで協力しながらやりましょうという土壌作りをしないと、今後伊東に来たお客様の満足に答えられないのかなと思います。

#### 【市長】

例えば、ゴルフをやる人に対して伊豆だけで27場あるからスタンプラリーという古いですけど、全部周ったら伊東の名産あげますよということでもいいと思います。

ハローワークの話が出ましたが、やっぱりイラストや漫画を使って分かりやすく理解できるものを作っていかなければいけないと思いました。

本日、4人のご意見をいろいろ聞いてとても参考になりました。いただいたご意見に対して、我々もこんな形でできそうだとか、フォローアップをしたいと思いますので、今後もまたご協力をお願いします。

#### 【B委員】

よろしいでしょうか。関係人口という概念があると思いますが、他所に住んでいるけど、伊東のイベントやまち作りに関わってみたいと思う関係人口の層を育てるという視点が必要になると思います。

城ヶ崎分校の跡地は県の所有ですが、何かワークショップをやって、周りに住んでいる方々や関わりたいと思っている企業の方々の意見を聞いて、個人的には企業の研修施設に対応できればと思いました。温泉の配管が近くを通っているので、温泉を持って行って、企業の研修兼ワーケーションとかコワーキングスペースに活用できたら良いのかなと思いました。

広報紙を活用した市長への手紙の取組は素晴らしいと思ったのですが、モビリティマネジメントで、年に1回でもバスと鉄道の状況をつけて、車ばかり使うとこんなに悪

影響があるんですよというのを広報しても良いのではないかと思います。ディスインセンティブみたいなものがないと、なかなか公共交通も使う動機がないのかなと思うのでそういった支援をしていただきたいと思います。

地産地消で内側の供給力で内側の需要を満たすという意味で、伊東マルシェを育てるべきだと思います。

伊豆伊東高校が定員割れをしているお話を伺いまして、静岡の東部や東京圏を志向している傾向が見られているのかなと思います。中学校の校則で、指定のソックスがあるとか学ランの上に上着を着てはいけないといった校則の厳しさから田舎イコールダサイという漠然としたイメージが形成されると思います。明らかに合理性に欠ける校則は少しずつ見直していく必要があると思います。ブラック校則なんて話題になっていますけど、見直していくことで「伊東市いいじゃん」というイメージになるのではないかと思います。制服の上に上着を着てはいけないという校則について、マスコミがなぜ駄目なのですかと聞いたら、「わかりません。昔から決まっているからです。」と先生も説明ができていませんでした。まさに合理的ではありませんし、こんな田舎出ていってやるという様になってしまいます。もし合理性に欠ける校則があるのなら、見直しの動きをしてもいいのかなと思いました。

#### 【市長】

ありがとうございました。今後もぜひご意見をお聞かせいただければと思います。本日は長時間お疲れさまでした。最後に事務局からご案内がございます

#### (5) 閉会

事務局から来年度の未来ビジョン会議委員について説明。

以 上